



海上自衛隊の魅力を発信 横須賀地方隊部隊見学



自衛隊東京地方協力本部台東出張所（所長 野川一陸尉）は6月21日、中央大学学生の海上自衛隊横須賀地方隊部隊見学を支援した。この部隊見学は、中央大学法学部学生から、「海洋国家である我が国の領海の防衛を担う海上自衛隊の護衛艦及び潜水艦の見学をしたい。」との熱烈なオファーを受け企画に至り、海上自衛隊横須賀地方隊の協力をいただいて、第2護衛隊群所属の護衛艦「たかなみ」及び第11潜水隊所属の潜水艦「たいげい」の特別公開が実現した。

まずは護衛艦の機関操作室において見学を実施した。機関操作室には艦内の状態を一手に把握できる制御システムがあり、学生たちは簡明で機能的なシステムに大変興味を抱いている様子であった。次いで護衛艦内の食堂において乗組員と懇談会を開催した。学生たちは海上自衛官としてのやりがいや入隊を選択した決め手等について質問し会話弾んだ。最後に潜水艦の概要説明を乗組員から受け、艦内見学を実施した。学生たちは普段見ること出来ない潜水艦の構造を見学することが出来て満足げな表情を浮かべていた。

参加した学生たちからは、「わが国の生命線である海洋の自由と安全を守る、海上自衛隊の重責を感じることができた。」「最新鋭の潜水艦に搭載されている技術の高さに驚愕しました。」「護衛艦、潜水艦の乗組員の皆さんの雰囲気の高さから職場の魅力を感じ取ることができました。」などの感想が聞かれた。

自衛隊東京地方協力本部台東出張所は、自衛隊の魅力を発信して募集対象者に自衛隊が職業の選択の一つとなれるように対象者ファーストで募集活動を行っていくとしている。

新島高等学校で防災講話を実施



自衛隊東京地方協力本部港出張所（所長 濱田3陸佐）は7月5日、新島高等学校（東京都新島村）において、学校からの依頼に基づき、高齢化が進む新島村の若年層に對して防災意識の醸成を図る目的で、新島高等学校2年生10名に對し防災講話を実施した。

所長による防災講話では、当初、能登半島地震に伴う自衛隊の災害派遣の概要を皮切りに、今後起こり得る首都直下型地震や南海トラフ地震等の災害が発生した場合の避難の流れ、避難の判断、避難時の注意事項及び避難所生活での留意点について説明した。特に、新島村内の避難場所・避難所について認識させるとともに、高齢者が多いという特性を鑑み、学生自らが自助だけでなく、共助の意識を持つことの重要性について説明した。この際、防災士の資格を持つ学生から、島内の避難所において学生でもできる事項について補足説明をしてもらい、理解促進を図ることができた。

防災講話後には、実技として自衛隊式の止血法を紹介・展示・実習するとともに、身近な物を使って止血する方法についても紹介した。

参加した学生からは、「新島村の特性を踏まえて、共助の意識を持つことの重要性について再認識した。」「実際に被災した場合、避難所生活になることから普段から何を準備すべきか、どう行動すべきかを知っておく必要があることを再認識した。」「自衛隊式の止血法を実際に体験できて良かった。」等の感想が聞かれた。

港出張所は、今後も新島高等学校での防災講話に協力し、防災意識の醸成を図るとともに防衛省・自衛隊の理解を促進し、人材の確保に取り組んでいきたいとしている。